

陸前高田発

海外広報ディレクターを委嘱

陸前高田市は世界中に被災地の情報を継続して発信しながら幅広い支援を募るため、アメリカ人女性職員ミラー・アミアさんに、「海外広報ディレクター」としての委嘱状を交付しました。



アメリカ国籍のミラーさんは東京生まれで日本語が堪能なためアメリカ連邦捜査局＝FBIや、日本国内の企業で通訳を務めていました。震災後は気仙地域で活動する海外から支援団体で通訳として活動。陸前高田市の戸羽太市長が被災地の現状を綴った本を英語に翻訳しています。



ミラーさんは既に世界中の著名人に被災地の現状を手紙にしたためて送っておりハリウッドスターのジョン・トラボルタさんなどから激励の言葉が市役所に寄せられています。



現在、陸前高田市が募っている一本松の保存基金は、まだ目標額の1/3程度です。



震災報道も、少なくなる中で、ミラーさんは直接、海外のメディアや企業と連絡をとり被災地「タカタ」の今の姿を、全世界に向けて、発信してゆきます。(11/1 ニュースエコーより)

復興支援NPO・NGOが現地会議

被災者を支援する団体が一堂に会する会議が6日、盛岡で行なわれました。活動を継続するために必要な「人材」と「資金」がテーマです。これは、東日本大震災支援全国ネットワークが岩手・宮城・福島で定期的で開催しているもので県内では5回目の開催です。



今回は県内を中心に全国から被災地支援を行っている様々な団体の関係者およそ150人が参加。「ヒトの話」と題して行われたパネルディスカッションでは、被災地の人材について「震災発生当初は、がれき処理などのボランティアが求められていたが、今後はより専門的な知識を持ち、継続的に活動ができる人が求められている」ことなどが発表されました。(11/6 ニュースエコーより)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ

(毎週水曜日・ワイドステーション・午後3時半～)

7日は陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、4日に行われた産業まつりの様子を話してくれました。これは2年ぶりに開催されたもので、40以上の店が自慢の逸品を販売。県内外から訪れた人たちで賑わい、高田の元気を発信できたという事です。



(写真は陸前高田災害FMのスタジオの様子)

宮古発

元気発信ラジオ希望堂

(毎週土曜午後0時40分～)

10日は、グリーンピア三陸みやこの仮設店舗たるちゃんハウスにお店を構える津田時計写真店の新屋正治さんに、田老の写真を撮り続けている心境と発売された絵はがきについて伺いました。(写真：津田時計写真店の店内)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122